

古くからおこなわれているシンプルな漁法「覗突漁（ミヅキリヨウ）」

箱メガネから海中をのぞき長い竿で突いたりして魚介類をとります。

ここ鎌倉でもおこなわれています。



漁師さん曰く

海の中には別世界が広がっている

海を、まちの未来の資産となるように
別角度や複眼的に見ていくという思いをもって...

ミヅキカマクラプロジェクト



まなぶ



つどう



とる

ミヅキカマクラプロジェクト

坂ノ下、海からマナブ・ツドウ・トルの拠点

市民のための複数の役割を担う漁業支援施設づくり



山に海にと自然が溢れる鎌倉。四季折々の美しい風景は「鎌倉らしさ」のひとつ。

「鎌倉のアメニティ（心地よさ・快適性のよさ）」は、この自然によって大きく向上されているといえるでしょう。

海でいえば、まちのアメニティに寄与するだけでなく、朝夕の散歩、海水浴、スポーツや漁業等の場になっています。まちの暮らし・余暇・経済にとって貴重な資産といえます。

この資産を活用する。

まちの暮らし・余暇・経済のために活用を推進します。

この資産は自然です。

環境保護と資産活用のバランスは怠りません

1 現在、海でおこっていること

まなぶ

障害者の働く機会を創出

- 障害者が海藻を回収
- その海藻が豚の飼料に
- 海藻ポークとして販売



地元の食への接触機会を創出

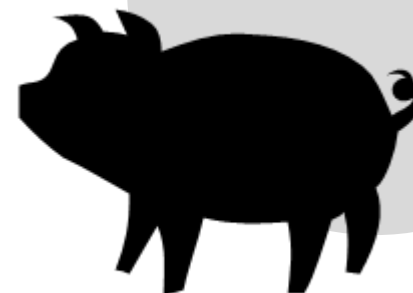
- 漁師さんが子供へ地元の魚について教える
- 地引網の体験機会



海藻を食べた豚が、市内のレストランへ

障害者が働く機会として
海藻を回収・乾燥・粉碎し
豚の飼料へ

海藻を飼料として
食べた豚



鎌倉のCafé & Meal
MUJIのメニューに



母藻は漁師さんへ
海にもどして豊かな海を保持



1 現在、海でおこっていること

つどう

豊漁を祈願し集う賑わう

- 年始、船おろしが実施
- 大漁旗が浜になびく風情ある風景
- 海にちなんだ神事あり



ビーチフェスタ、マリンスポーツ、憩いの場など

- 季節の行事等の場
- 市民活動の場
- 散歩など憩いの場
- コミュニティを育む



1 現在、海でおこっていること

つどう

砂浜を
きれいに
(海岸清掃)

海を保全する取組

海の生態系を
豊かに
(稚貝放流や
藻場の保全)



1 現在、海でおこっていること

とる

(じつは) 豊かな漁場

- 多品種の魚がとれる
- 知る人ぞ知る魚も…



地元の方の食卓へ

- 月一の朝市を開催
(4月～12月)
※夏場はお休み



知ってました？ アオリイカ、エビ、カニ、...



ワカメ



サザエ

春



アオリイカ



シラス



マダコ

夏



イセエビ

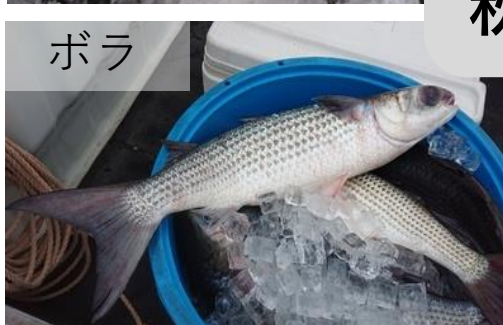


ワタリガニ



カマス

秋



ボラ



カワハギ



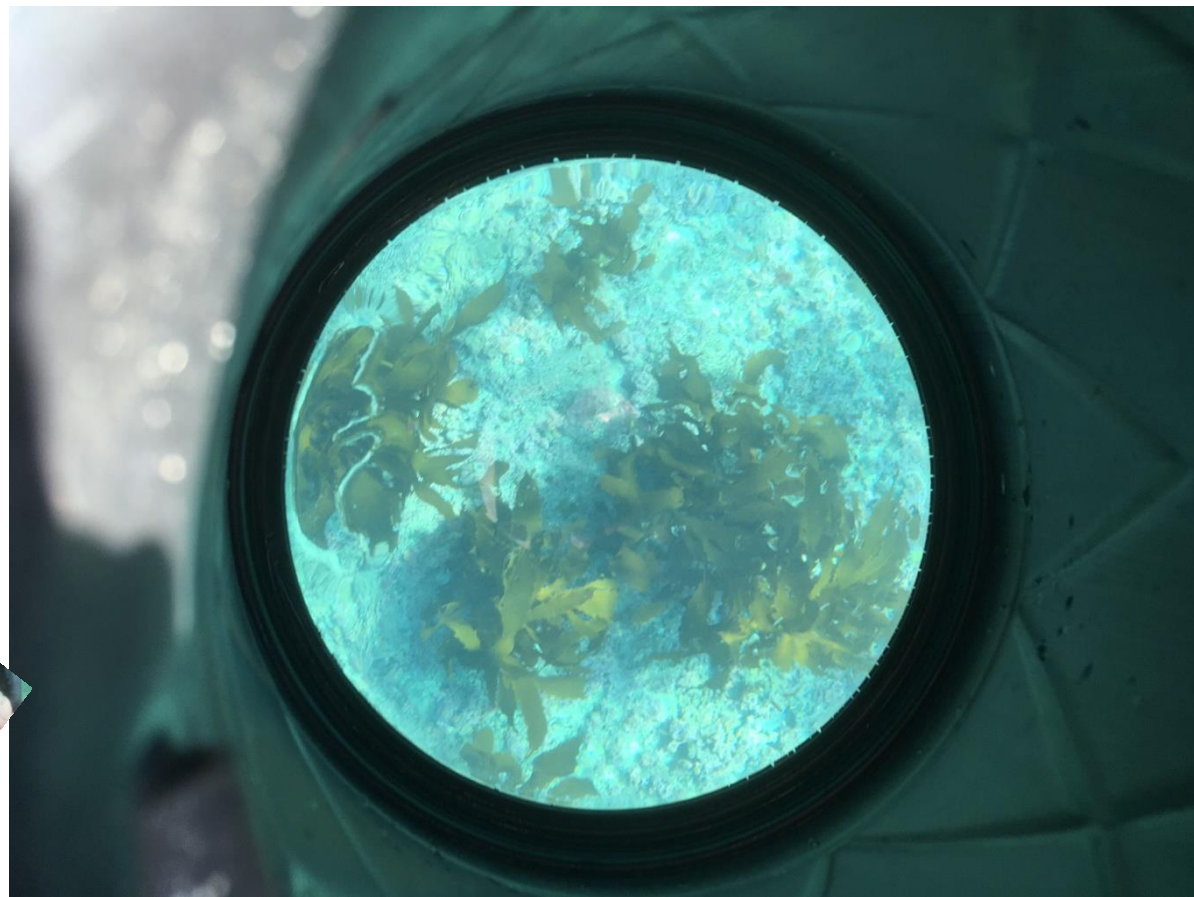
ナマコ

冬

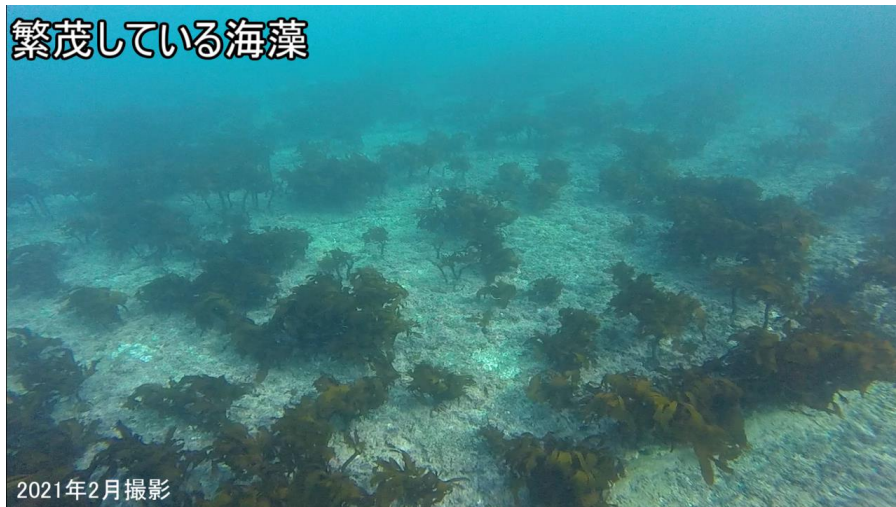
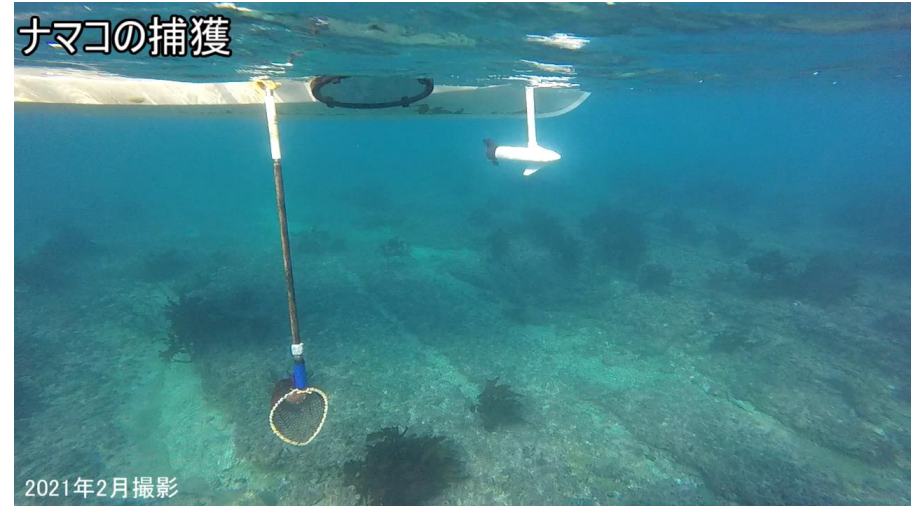


ヒラメ
カレイ

想像以上に、キレイなんですよ



鎌倉の海を覗いてみよう



これらの活動は、有志の個人・団体、漁師さんの活動によるところが大

まなぶ



つどう



とる



未来へつなぐ無形資産として
型化（かたか）できる環境が必要

砂浜の漁具倉庫は台風の被災をうけやすく、皆さんへ影響あり



平成29年10月、台風21号によって浜にある漁具倉庫の多くは崩壊。倉庫の破片が浜に飛散。



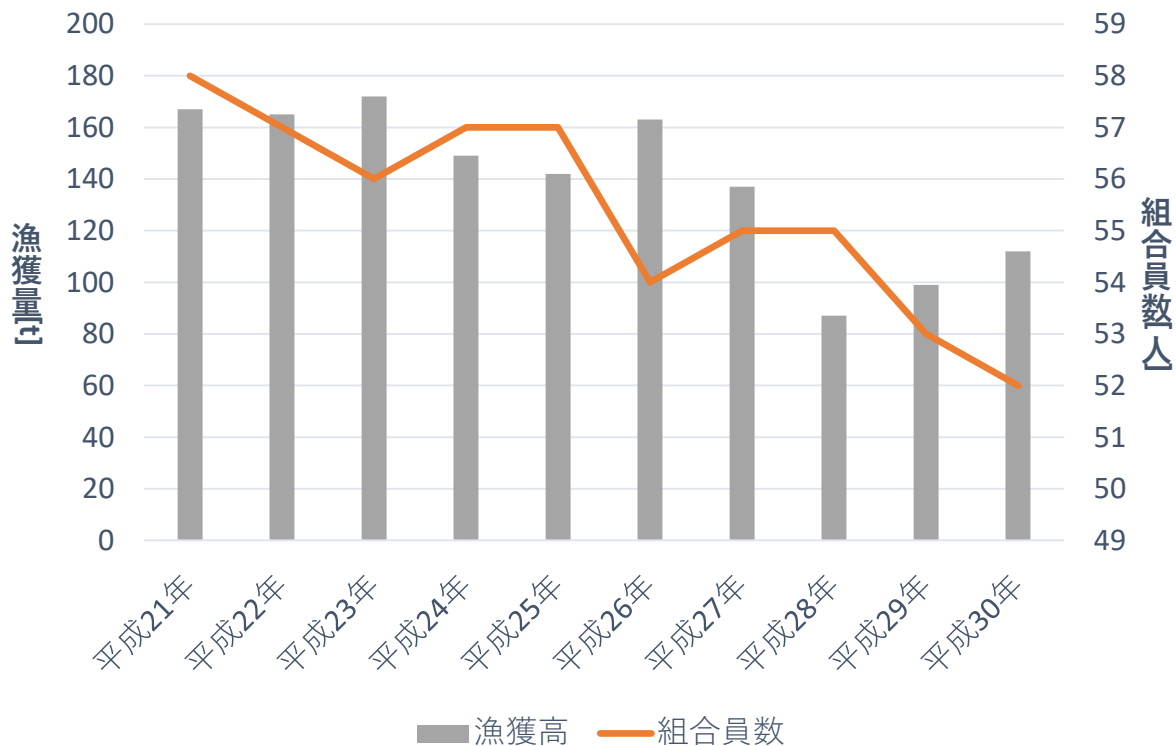
砂浜からの漁船の出し入れには台車を利用（一般的には港から出港）。波があると危険な作業に。実際、ケガを負った漁師さんも。

**環境の脆弱性は
日々の漁の効率性
災害にたいする耐久性にマイナス**

斜路を使用した出漁、砂浜からの出漁



漁獲量、組合員数は緩やかな減少傾向へ



このままでは漁業の継続が困難に

- さらに海水温の上昇など気候変動もあり、厳しい状況へ

1 現在、海でおこっていること

まとめ

まなぶ

- ・ 障害者の働く機会
- ・ 地元の食への接触機会

つどう

- ・ 豊漁を祈願し集う賑わう
- ・ ビーチフェスタ、マリンスポーツ、憩いの場など
- ・ 海を保全する取組

とる

- ・ 豊かな漁場
- ・ 地元の方の食卓へ

未来へつなぐ無形資産として型化（かたか）できる環境が必要

まなぶ

とる

ミヅキカマクラブプロジェクト

つどう

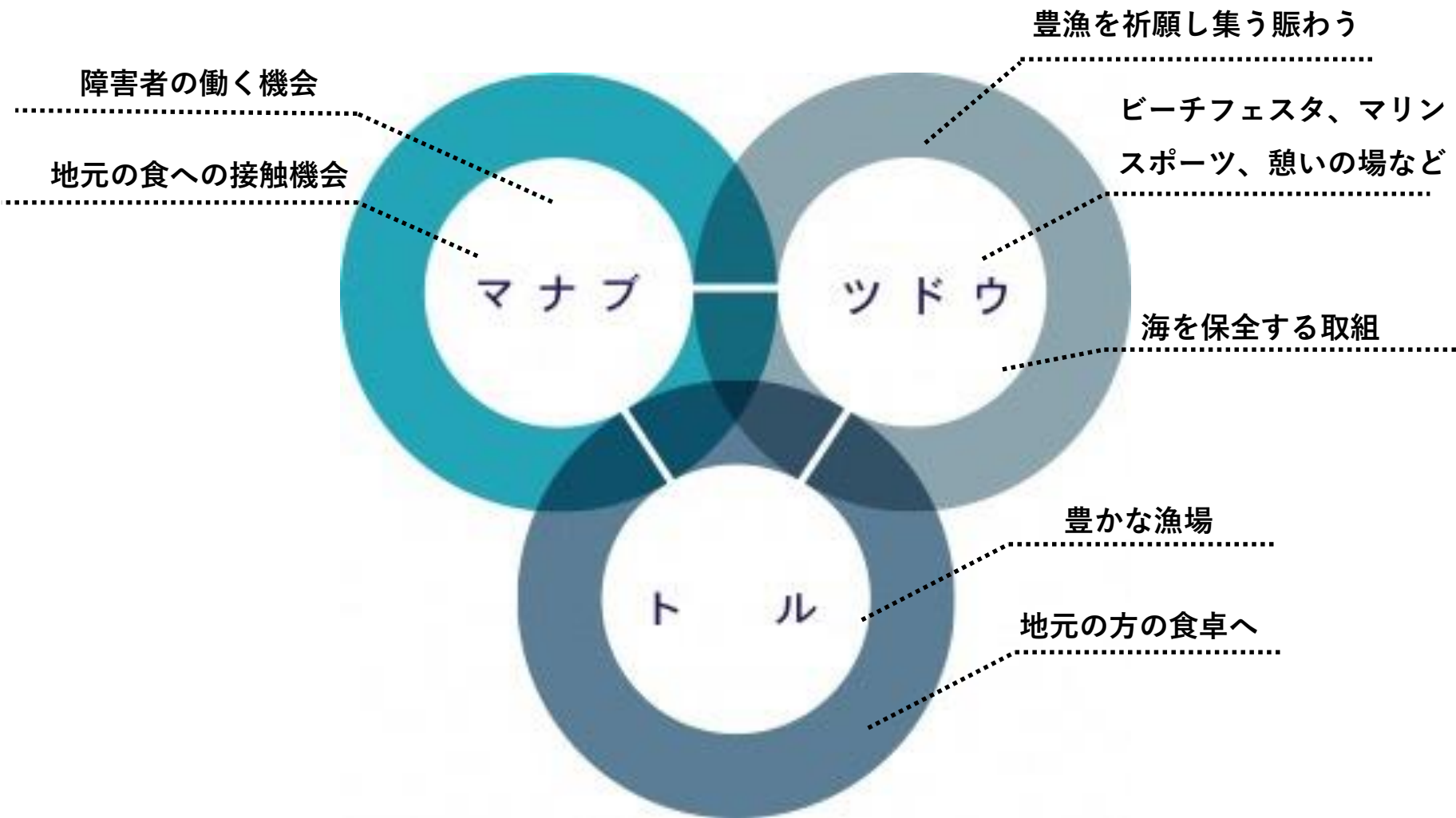
2 マナブ・ツドウ・トル

複数の役割を担う漁業支援施設づくり

2

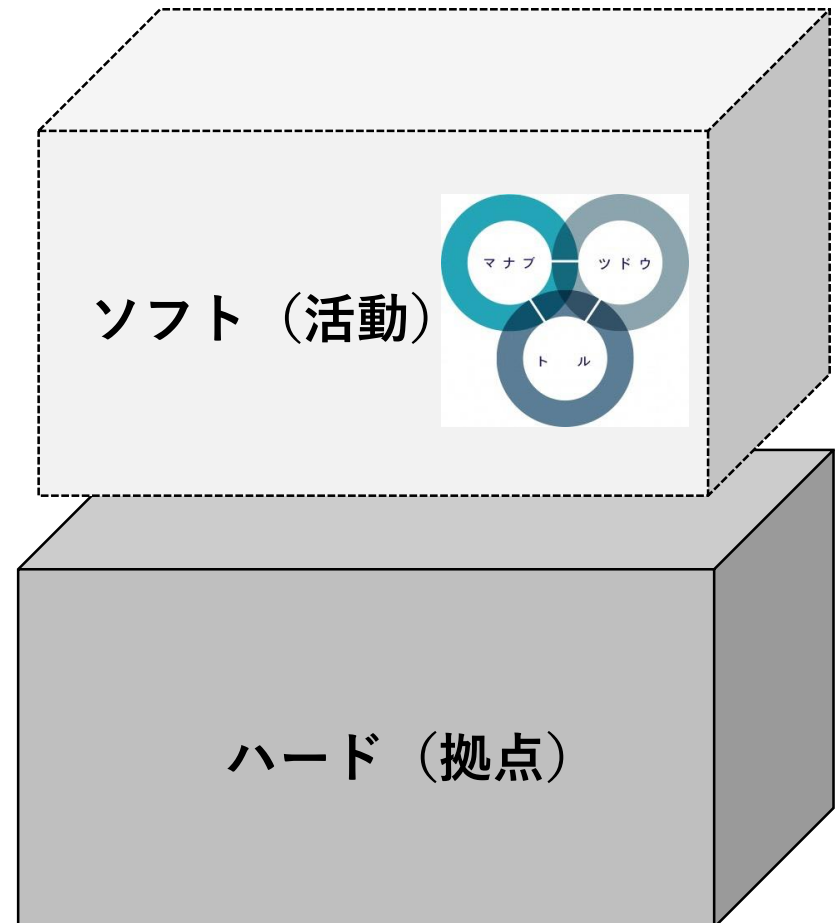
マナブ・ツドウ・トル

コンセプト
概念図



2 ハードによってソフトを型化

ハード（拠点）に
よって
ソフト（活動）を
型化する



拠点づくり（漁業支援施設イメージ）

施設整備前



施設整備後



漁業支援施設イメージ

砂浜を分断しない場所（海岸の端）
既存の構造物（消波ブロック等）を活用



漁業支援施設イメージ

砂浜に点在していた漁具倉庫・漁船を一か所に集約
漁船の出入りと一般の利用者の交錯の危険性減



漁業支援施設イメージ



国道134号側

漁業支援施設イメージ



国道134号側

浜のイメージ（現状→将来）

砂浜に点在していた漁具倉庫・漁船を漁業支援施設に集約

現状



将来のイメージ



浜のイメージ（現状→将来）

砂浜に点在していた漁具倉庫・漁船を漁業支援施設に集約

現状



将来のイメージ



2 ハードによってソフトを型化

拠点をつくり
何ができるか？

例えば、

拠点で安全に漁業が行える



出漁機会の増



拠点で朝市の開催

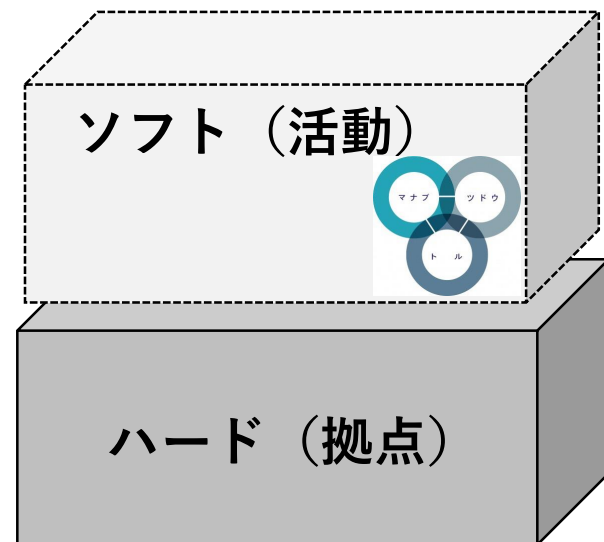


みなさまの食卓へ

また、
砂浜の利用・安全が向上し、
さらに集いやすく。
新たなソフト(活動)が生まれる。



地引網や箱メガネで海の中
見学など学びの場



施設完成後のイメージ（1 / 3）



施設完成後のイメージ (2 / 3)



施設完成後のイメージ (3 / 3)



9



10

拠点 ≡ 漁業支援施設

漁業支援施設でできること

- 砂浜にある小屋や漁船を坂ノ下の拠点に集約し、浜は広く安全に
- 安全に船を出し入れできる施設で、朝市や漁業体験などを行い、にぎわいや学びの場を創出し、新鮮なお魚を食卓へ
- 持続的な水産業で海の環境や生態系を保全

漁業支援施設の整備

- みなさんの資産である海。周辺環境への影響を考慮し、必要最小限に
- 事業費は15～20億円程度を想定（調査設計段階で変わる可能性があります）。国の補助事業などを活用し、市の財政負担の軽減を
- これから約10年間での整備を目指します。来年度から行政手続きや詳細設計を進め、令和8年度頃に工事着手したいと考えています。

ミヅキカマクラブプロジェクト

